



スイス、アルペンシュタイン (2022年夏撮影)



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

私は頑固ではない

今日、もし御声を聞かざらば、あなたがたの心を頑なにしてはならない。
荒野での試みの日に神に逆らったときのように。
ヘブル3:7・8

自分が頑固だと思っている人は、どれだけいるのでしょうか。頑固さの特徴は人に耳を傾けないことです。話を聞こうとしない頑固さ、聞いても理解しようとしなない頑固さ、自分を譲ろうとしない頑固さ、それは私たちの大切な人間関係にマイナスにさせてしまいます。聖書は困る頑固さを「頑なな心」(うなじがこわい)と呼びます。私も「頑固じじい」と呼ばれないよう、生きたいと願っています。

では、何のために頑固になるのでしょうか。それは「これは正しい!」と自分の正しさにしがみつからずです。あくまで相手の悪さを言い張り、執念深く固執します。それを譲れば自分が崩れてしまうと思うのです。でも実際には崩れません。そうなるのでは、と恐怖を覚えるにすぎません。だから必死になりそれを守ろうとして、頑固になり、自分の主張を強要してしまうのです。頑固はエスカレートしてしまいます。人間は、世間さまには、比較的のもの分かりの良い顔をするものです。しかし、身内の間では特に頑固になることが多いものです。

頑固は人間関係を損失させ、なんのプラスにもなりません。

それでは、いったい、心の頑なさを柔らかにする秘訣があるのでしょうか。それは安心することです。自分はこれを譲っても大丈夫。譲っても自分は崩れない。安心するには、自分より大きな方(神)に身をゆだねることです。自分を守るために、硬くしている必要などはありません。この大きな存在である神にお任せするならば、柔らかで強い自分に変えられるのです。少しぐらい妥協しても、大丈夫です。大きな存在である神に身を任せるならば、自分は崩れることはありません。聖書は、その大きな神に信頼することを勧めています。

「イスラエルよ【主】に信頼せよ。主こそ助け また盾。」(詩篇115:9)「民よ どんなきにも神に信頼せよ。あなたがたの心を、神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇62:8)そして新約聖書も、「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」(ローマ 10:11)と教えています。主への信頼こそ「頑なな心」から解放を得る秘訣です。主を信頼しましょう!

コロナ禍の海外邦人宣教22

欧州邦人宣教

ミュンヘン日本語キリスト教会
牧師 井野葉由美

前回に引き続き、南ドイツのミュンヘンよりレポートいたします。日本でもコロナが猛威を振るっていると聞いていますが、ここドイツでも、依然、感染者数は高水準です。逆に多くの人が感染し、もう「誰もがかかる普通の病気」という感覚になってきました。

現在ドイツでは、コロナ禍よりも、ロシアとウクライナの戦争とそれによる影響が人々の関心事となっています。食糧やエネルギーの不足、物価の高騰が起こり、メディアで悲惨な戦禍の様子を見聞きすると、人は怒りを覚え、誰かを悪者にして、その怒りの矛先を向けたいと、負の感情の連鎖が引き起こされるようです。人が憎しみを育てないように、戦闘が一刻も早く終結するように、主の憐みを祈るばかりです。

コロナ禍が始まる前から、私はノルウェーにある、オスロJCFという、牧師のいない日本語のキリスト者の群れに関わってきました。年に4回オスロに行き、集会のほかに、個人的な交わりを持っていました。ところがコロナが勃発し、オスロに行けなくなった時から、逆にZoomによる月2回の礼拝、月1回の祈り会が始まりました。これは、ずっと月1回の単発の集会を続けてきたオスロJCFにとって、画期的なことでした。集会をオンライン中継するのではなく、全員が参加して、司会、祈り、聖書朗読や奏楽を担ってくださり、礼拝後の分かち合いにも参加します。この働きは広がり、周りに日本人キリスト者がいないアイルランドやカナダなど、毎回平均7か国くらいの人々が参加して、恵みを受けています。オンラインではありませんが、ともに御言葉を聴き、祈る共同体となって来ているのを感じます。

さて、ミュンヘン日本語キリスト教会が、現在、大きな転換期を迎えていることは、先月お伝えしたとおりです。ヨーロッパの日本語教会は、どこも少人数で、自分たちの献金のみで、牧師を支えることが難しい状況です。日本ですと、牧師が働きながら牧会することもあります。私は、ビザの関係で、ドイツで働いて収入

を得てはいけないことになっています。そのため、ほとんどの働き人は、宣教師として、日本から、あるいは他の宣教団体からサポートを受けています。海外で、様々なストレスを抱えながら生活している人が、母国語で聖書のメッセージを聞き、祈り、賛美して、養われていくことができるようにと、多くの方々が、この働きの重要性を認識して、献金してくださっていることを、心から感謝しています。献金は祈りであり、皆様の祈りは、すなわち宣教であると私は思っています。私は常々、祈られていることの力強さを感じています。この祈りの支えがなかったら、私は一歩も動けなかったでしょう。日本で祈り支えてくださっている方々は、宣教の同労者ですから「私も宣教しているのだ」という思いで、これからも関わってくださると嬉しいです。

私たち海外日本語教会は、今までそうやって、実際にお会いしたことのない、多くの方々の思いと祈りと献金によって支えられてきました。その恵みを実際に経験してきた私たちだからこそ、これからは受けるばかりでなく、自分の教会という枠を超えて、主の働きのために祈り、支える教会になって

いきたいと願っています。ヨーロッパの日本語教会は、毎年夏に行われるヨーロッパ・キリスト者の集い(今年は第39回を数えました)をはじめ、いくつかの他教会と合同の集会がありますが、それでも、他教会との交流は少ないと感じます。そのため、視点が自分の教会の中だけにとどまりやすい気がします。しかし見方を変えて、日本の様々な場所の様々な教会から送られた人々が集い、また日本に、あるいは世界のどこかに散らされて行くことを思えば、一つの教会という枠を超えた、大きな主の働きに参与しているとも言えます。海外では、日常生活から助け合う必要があるため、礼拝や集会にとどまらない教会員同士の交流があります。信仰が日常生活化するといいのでしょうか。そのようなキリスト者を日本や世界に派遣し、そういう意味で、海外日本語教会も、世界宣教に貢献していきたいと願っています。「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。」(エペソ4:12)このキリストのからだは、個々の教会だけでなく、大きく、全世界のキリスト者の集合体とも言えるでしょう。宣教は、宣教師だけのわざではなく、キリスト者全員の生き方に関わるものだと信じています。

読者の皆様、これからも置かれた場所で、主の御業に参加していきましょう。

(つづく)



ファミリー礼拝にて

黒田禎一郎牧師と行く聖地イスラエル10日間の旅

私たちの聖地旅行の特徴は、心を静めて歩く「ゆったり旅」です。イエス・キリストが愛された静かなガリラヤ湖で3泊し、ゆっくりした静思の時を持ちます。毎朝のデボーションから始まり、野外礼拝でも神を賛美する楽しい旅です。

期 間：2022年2月6日(月)～2月15日(水)10日間

募集人数：25人(最小携行人数15人)

旅行代金：498,000円(別途燃油チャージ、出国税が必要)

申込締切：2022年10月末(定員になり次第終了)

団 長：黒田 禎一郎 利用航空会社：トルコ航空(羽田空港発着)

お申込・お問合せ：(株)ホーリーランドツウリストセンター

大阪市中央区北浜 2-3-10 VIP 関西センター5階

TEL:06-6226-1307 FAX:06-6226-1308 企画：ミッション・宣教の声

イスラエルツアー
再開しました!

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

173

ウクライナ共和国
黒田 禎一郎

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」 IIテモテ 4:2

プーチン・ロシア軍がウクライナへ軍事進攻し、早くも7か月以上が経過しました。この期間、どれほど多数の子どもを含む尊い生命が奪われたかを覚えると、心痛の極みに立たされます。しかもこの戦争は出口が見えない戦争であり、西側諸国も阻止できない状況が継続しています。政治面は横に置き、私たちはこれまで被災地の方々とキリスト教会の支援を進めてきました。戦争という異常事態下のウクライナで、生ける神はみわざを成しておられます。



プーチン大統領

少数民族を激戦地へ

今月は、ウクライナへ進攻を続けるロシア軍兵士に目を留めてみます。8月中旬、独立系ニュースサイト「メディアゾーナ」は、ロシアの少数民族が優先的に激戦地へ投入されていると報じました。それによってイスラム教徒やモンゴル系が多い地域から派遣された兵士の死者が突出していることが判明しました。ロシアは人口の約8割近くがロシア系ですが、約80の民族が住んでいます。独立系ニュースサイト「メディアゾーナ」やBBC（英国放送協会）は、自治体発表などを基に、死亡を確認したロシア軍兵士

5,507人の出身地を公表しました。それによれば、少数民族が多い地域の戦士者が突出していることが判明しました。最も多かったのは、約9割がイスラム教徒のダゲスタン共和国で267人。モンゴル系ブリヤート人が人口の約3割を占めるブリヤート共和国が235人。バシコルトスタン共和国からは171人。チェチェン共和国は122人。タタルスタン共和国112人と続きました。それに比べ出身地がモスクワであった兵士は14人でした。ダゲスタンの人口は約315万人で、モスクワ人口は約1,264万人ですから、人口比は約4分の1ですが、死者数は19倍となります。

プーチン大統領

プーチン政権は2月24日、「ウクライナで迫害されたロシア系住民の保護」を名目に掲げ、ウクライナ侵略を開始しました。プーチン氏は5月、第2次大戦で旧ソ連各地から様々な民族が戦闘に参加し、ナチス・ドイツに勝利した「独ソ戦争」になぞらえ、ウクライナでの軍事作戦についても「様々な民族の兵士が兄弟として弾丸から互いの身を守っている。これがロシアの強さである。」強調しました。しかし、実際的には激戦地への兵士投入に差別的な扱いがある疑惑が浮上してきました。これによって少数民族の中から反発の動きが出ています。

少数民族からの反発

露英字新聞「モスクワ・タイムズ」は7月19日、ダゲスタン共和国から派遣された300人以上の兵士が、戦闘継続を拒否し帰還したと報じました。激しい地上戦が続くドンパス地方に送り込まれた兵士で、一部は地元政府から「圧力」を受け戦地に戻されたと言われます。また「メディアゾーナ」は8月5日、ブリヤート共和国出身の兵士の証言として、同じ部隊の70人以上が戦闘を拒否する上申書を上層部に提出したと報じました。

神は生きておられる

かつての旧ソ連時代も、同じようにユダヤ人をはじめとする少数民族に弾圧が加わりました。なによりも無神論社会体制で、生ける神を信じる聖徒たちは敵として扱われました。そして極寒シベリアの地にあった強制収容所へ送られました。旧ソ連政府はキリスト者に弾圧を加えましたが、イエスをキリストと信じる人々は増加し、霊のリバイバルが起こりました。プーチン大統領はかつてのソ連を取り戻そうと、独裁者スターリンを尊重し、周到な計画の内にウクライナ進攻を進めました。しかし、真の鍵を握るお方は生ける神です。私たちは神が「なぜ」このような悲惨な事態を許しておられるか、真剣に考える必要があります。髪の毛一本さえも数えておられる神、天空にある無数の星の名前を知っておられる神が、ウクライナの悲劇を知らないはずはありません。

ゲルハルト・ハム世界巡回伝道師は、ソ連時代は10人の地下教会伝道者の1人でした。彼の火を吹くような強烈なメッセージは、今も多くの人々の心に残っています。彼は「共産主義、無神論主義というイデオロギーに反対するが、その共産主義者と無神論者を愛さなければならぬ。」と語りました。そして旧ソ連はじめ世界中の人々に、キリストの福音を届け続けました。使徒パウロは愛弟子テモテに、「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」と勧めました。非常に困難な時代、今一番必要としているのは神のみことばです。今回、ロシア軍兵士で犠牲となっているのはムスリムの少数民族の人々です。私たちは彼らのためにもキリストの福音が届くよう祈るうではありませんか。そして神がロシアにいるキリスト者を用いて、彼らにもキリストの福音が届くよう祈りましょう。（つづく）



ロシア軍トラック

我が身に神の御心だけになるように

2021年10月から12月号の「神の証人となった家族」では、13才で脱北した少年クォンヌンとその家族を通して、神が織りなす奇跡ストーリーを掲載しました。脱北から13年、26才の青年は修士課程の習得を目指しながら、北と南での働きのために神に用いられる器へと変えられ、今月号はそんな彼のエッセイをご紹介します。

真綿の鎖

私、クォンヌンがまだ幼い頃、北朝鮮で姉と偶然見た韓国ドラマのワンシーンは、私の胸を躍らせました。ドラマの中で革手袋をはめ、暴力団員役を演じていた韓国の俳優チュ・ジンモが「お母さん、申し訳ございません。」と母親の前で膝まづいた姿が、子ども心にとても格好良く見えました。家に帰った私は、わざと居間を散らかし、ドラマと同じように膝まづき、同じセリフを母親に言いました。すると、青ざめた顔をした母親から、二度とその言葉を口にするなという厳しい叱責が返ってきました。「申し訳ございません」という言葉は北朝鮮には存在せず、南だけで使われる言葉で、そんな言葉を他人に聞かれたら、私たち家族は生命を落とすことにもなり兼ねないのです。北朝鮮の子どもたちは、そんな複雑な事情を幼いうちから体感していきました。独裁政権は家族のささやかな暮らしの中でも、真綿の鎖のように私たちを縛り付け、子どもも大人もこれが当たり前の日常だと何の違和感も感じることはありませんでした。

神の偉大なる計画

北朝鮮政権はユートピア的な共産主義思想を唱え、国民たちが自分で考え、決定する自由さえ奪い、洗脳というかたちでも国民を搾取し続けました。その悲劇の表れは、1990年代に推定300万人以上の餓死者を出すという結果となりました。飢えで亡くなった人々の遺体が横たわった荒地でも、何ともしも生きようとする人々がいました。神はそのような人々の味方となって下さり、決して北朝鮮を見捨てられません。家にあった僅かな生活必需品を持って街に出て、食料と交換し始めるという、生きる術を神は人々にお与えになりました。この小

さな物々交換は、やがて闇市場、チャンマダン(朝鮮語で野外市場という意味)へと姿を変えました。私の姉もまだ中学生でありながら、学校の帰りに闇市場でお菓子などを売り、商売を始めました。姉のようなチャンマダン世代と呼ばれる若者たちが、この市場の発展に欠かせない存在となりました。政府は勢いの止まらない市場をもはや阻止することはできず、2002年に市場に対する降伏宣言を下しました。北朝鮮全域では現在も440以上の公式市場が存在し、社会主義計画経済を標榜していた北朝鮮内部に、資本主義市場経済を生み出し、国民が勝利しました。また、チャンマダンでは物品の売買だけでなく、海外からの情報も密かに得ることができました。外の世界を夢見た者たちが国境を越え、ディアスポラとなった彼らを通し、福音が全地へと広がる壮大な計画の一つとして、神はこのチャンマダンも用いておられました。やがて、私たち一家も神の偉大なる計画のために、その御手に動かされていきました。

疎通から生まれる小さな南北統一

私は生命を賭けた長い旅路の末、2009年2月に大韓民国に入国し、新しい暮らしが始まりました。北から来た自分をこの国の人々はどうのように見るのか、中学に入った私は誰からも見下げられないようにと頭髪を剃り、目力を鋭く見せ、自分は北から来たのだと堂々と叫びました。一人でも私をからかう者があれば、その者を完全に制圧し、二度と私を誰も馬鹿にできないようにしてやろうと思いました。ところが、クラスメイトたちは好奇心旺盛に、北朝鮮に関する質問を興味津々と私に投げかけました。おかげで私たちは良い仲間となり、私は中学で副会長にまで選ばれました。高校生となった私は、北朝鮮で受けた教育での影響もあってか、授業についていくことが困難になりました。そんな私を親身になってくれたクラスメイトたちが放課後、勉強を教えてくれ、先生たちも私を気にかけてくれました。大学では、出身地を知った学友たちが内心色々聞きたくても、あえて何も尋ねなかったと彼らの気遣いを後々になって知りました。彼らはありのままの私を受け入れ、友情を育んでくれました。しかし、全ての脱北者たちが、私のようにいつも恵まれた訳ではなく、心無

い言葉や不当な扱いで、深く傷つくことも多くあります。

けれども、この大韓民国でも、私たち脱北者を傷つけまいとする、いかなる表現や行為などを禁止するのなら、この国で触れた人々の美しさを私は知る由もなかったでしょう。ガラス細工に触れるような関係よりも、傷ついてもぶつかり合う過程を越えてこそ、疎通が生まれます。その幾つもの疎通が小さな南北統一を作り、いつしか互いに神を見上げ、福音によって朝鮮半島の南北統一がなされる、そんな日が来ることを願ってやみません。私はそう願いながら、今日も統一と祖国の同胞たちのために神に遣わされた人生を生きていく、それが今の私の上で起こされた神の御心だと信じて一。

クォンヌンのように過酷な地で生を受けても、そして、どんなにその環境から脱出することが不可能に思えても、神がその御心を果たされるなら、必ずその人を、また私たちを、神が意図する場所へと動かされます。私たちが今、生かされているその場所で、神は私たちを通して、御自身の栄光を現したいと願っておられます。それは迫害地に生きる聖徒たちだけでなく、私たち全ての神の子どもたちにも同じように願っておられます。今日という日に、「我が身に神の御心だけになるように」そして私たちを通して神の栄光が現されますように。

「どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」
(ルカ1:38)

(名前は仮名です)(次号につづく)



北朝鮮軍パレード

ロシア

ロシア軍がウクライナに進攻してから、ロシアとイスラエル間に緊張感が走り始めました。ロシアにあるユダヤ移民組織「JAFI」は、ロシア法務省から活動制限が出されました。ウクライナ戦争勃発以来、何千人ものユダヤ人がイスラエルへ帰還しました。ユダヤ人の帰還運動にはイスラエル政府が協力するJAFIが関与していますが、彼らのロシア国内での活動にブレーキがかかりました。JAFIへの活動制限は、これから予先がイスラエルに向けられことが予想されると、ルカ・ヘルツェルCSI代表が語っています。CSIとは「イスラエル側に立つクリスチャン」という名称を持つ宣教団体です。ユダヤ移民組織JAFIのダニエル・モア氏は、2022年に入ってから、1万8千人以上のユダヤ人がイスラエルに帰還したと語っています。そして現在もロシアには約50万人のユダヤ人が住んでいます。JAFIは1998年に創立され、イスラエルと欧州にいるホロコースト残存者と支援を必要とするユダヤ人を援助してきました。彼らは反ユダヤ主義に立ち、イスラエル・ドイツ間の正常な関係を保持するように支援し訴えています。お祈りください。



ロシアで活動制限を受けている移民組織JAFI

ドイツ

●「ジハード」による死こそ、天国に入る道であるという教えの中で、生まれ育ったパキスタン人のイマン(イスラム教聖職者)が、クリスチャンとなりました。彼の名前はホセイン・アーマド(仮名)で、彼の父も祖父もイマンでした。ホセインは13歳でアラビア語のコーランを暗唱し、コーラン暗唱大会で優勝しました。彼の母国語はウルド語ですから、意味は理解できませんでした。彼はジハード学校に入学し、武器の使用法を習いました。そして若いムスリムに「シャリア」(イスラム法規)を教え、キリスト教徒にどのように立ち向かうかを教えていました。キリスト教徒がムスリムに改宗しないならば、あるいはイスラム教を冒瀆するならば、それは死を意味することを教えていました。彼は毎日モスクに通い、アラー神に向かい5回の祈りを休む日はありませんでした。しかし彼は自分には罪があることを自覚し、死に対して不安があったと言います。ですからアラー神の御心に従うよう努めて生きていました。



2009年「アジア・ビビに死刑を!」と叫ぶムスリムたち

2005年、彼は19歳でヨーロッパへ渡り、欧州のイスラム教徒の活性化と、イスラム教布教を目的とし活動し始めました。アテネでは2つのモスクを建て、精力的に活躍しました。しかし、ある時彼はアテネでクリスチャンに出会いました。そこから彼の人生は一変し、ムスリムからクリスチャンに回心、彼の劇的人生が始まりました。それから彼は常に死の危険にさらされていますが、ドイツへ亡命し伝道者となりキリスト教会も建て上げました。現在、彼は特別保護下に置かれ、イエス・キリストの福音を伝えています。お祈りください。

●ヘッセン州ラン・デイル地方において、8月12日大規模な

森林火災が発生しました。火災は2か所から発生し、45ヘクタールを燃え尽くしました。消火のために近隣地区6か所から約1千人の消防士が出動し、空からはヘリコプターで消火作業を行いました。消火作業にあたった消防局は、2週間以上も燃え続けたと発表しました。この森林火災による煙は広範囲に広がり、その一帯は煙に包まれました。このような大きな森林火災は、これまで経験したことがないものでした。ハイガー市長は、「この森林火災鎮火にあたり、消防士はじめ多数の人々が協力し、非常によく働き、火災鎮火に努めてくれた。」と謝意を表しました。



ヘッセン州の森林火災

ウクライナ

ドイツ・ベルクノイシュタットのヨハネス・ライマー教授(宣教学)は、ウクライナにおいてオカルトが新たな勢いを増してきたと警告を発しています。ライマー教授は、ウクライナ戦争が始まり人々は超自然現象による力に、助けを求めていると言います。東欧諸国のオーソドック教会(正教会)では、以前からオカルト現象は見られますが、ウクライナ戦争を機にオカルトは活発化してきました。無神論主義が崩壊し悪霊による力が大きく現れてきました。呪い師、占い師、ト者、呪術者が、人々の不安を背景に横行しています。このオカルト現象はかつてソ連邦崩壊後にも見られました。正教会信者の中には、混迷下で超自然的助けを求める傾向が増加しています。正教会では昔から「イコン信仰」が存在し、信者は伝統的な「イコン信仰」に強く縛られてきました。ウクライナ避難民として西側に脱出した正教徒信者の中には、国を出る前にウクライナ正教会祭司によって、自分の家屋・家財が守られるよう密かに儀式を行ってきたという人々もいます。またお札、お守りを買ひ、息子が戦死しないよう祈願してきた人々もいます。ウクライナの地が汚れた霊にこれ以上汚染されないよう、お祈りください。



ヨハネス・ライマー教授

イラン

国際人権委員会(IGFM)とキリスト教出版社IDEAは、8月の「囚われ人」として3人の元ムスリムを挙げ、彼らの釈放のため全世界に祈りを要請しています。3人はアーマド・サルパラスト(25歳)、アユブ・ポレツアツアデー(28歳)、モルテツア・マスホードカリ(38歳)です。今年5月8日、彼らはイラン政府に反しキリスト信仰を保持し続けたため逮捕されました。3人はイラン福音派教会の信徒で、個人宅での祈祷会中に襲撃を受けました。しかし彼らが初めて捕らえられたのは昨年9月5日で、それも祈祷会の最中でした。3人はイスラム教に改宗するよう洗脳教育を強いられました。彼らには、それぞれに5年の実刑判決が言い渡されました。イランは国民の95%がイスラム教徒です。少数のクリスチャンのためにお祈りください。



アーマド・サルパラスト兄弟



アユブ・ポレツアツアデー兄弟



モルテツア・マスホードカリ兄弟

コンゴ

国際宣教団体「オープン・ドアーズ」によれば、今年7月に北東部ルームにあるキリスト教病院がイスラム教過激派集団から襲撃を受け、13人の死者が出ました。アフリカ中部に位置するコンゴは民主主義国家で、キリスト教徒が多い地域で事件は起こりました。コンゴ軍の発表によれば、過激派集団は病院に放火し、4人の患者と9人の人命を奪いました。犠牲者の内には3人の子どもも含まれていました。お祈りください。



13人の命が奪われたルームの病院

スーダン

ロンドンに本部を置くキリスト教人権団体「クリスチャン・ソリダリティー・ワールドワイド」によれば、西スーダンのダルフールでクリスチャン男性たちが逮捕されました。彼らは政府公認教会に通っていましたが、弁護士はイスラム教への背教は死を意味すると言います。彼らは何度も尋問に引き出され、イスラム教への改宗を迫られています。2020年、当時の政権は保証金制度を廃止しましたが、昨年10月の軍事クーデターの後、新政権は保証金を要求しているとのこと。どうぞ、お祈りください。

ナミビア

ナミビアはアフリカ南西部に位置し、世界最古の「ナミブ砂漠」を持つ国ですが、1990年3月に独立宣言した人口約260万人の共和国です。かつては英国やドイツの植民地であった歴史的背景から、国民の90%以上がキリスト教徒です。しかし非常な貧困と闘っています。この国は、聖書は最も価値の高いものであると、世界聖書協会ドイツ支部(シュトゥットガルト)は発表しました。同支部は子ども聖書の配布運動を推進していますが、国民の半数以上が飢餓に苦しんでいると言われます。飢餓状況の最悪地域は農村部で、家畜業を主にする住民は渴き切った土地で家畜を養えない状況です。彼らには1冊の子ども聖書さえありません。他に問題となるのは、小国内で30言語も使われていることです。そこでナミビア聖書協会は主要な7言語で、子ども聖書を学校、病院、教会に配布しています。それに加えて太陽光を利用した器具で聖書に関する本等を読

めるような運動も進めています。どうぞお祈りください。

イスラエル

エチオピア系ユダヤ人が、はじめてイスラエルの地を踏んだのは45年前でした。現在16万人以上になりました。来年、全世界の離散ユダヤ人の希望である帰還を記念する大会が、エルサレムで予定されています。エチオピア系ユダヤ人の内訳は、28.6%が14歳以下で、48%が高校卒業資格(イスラエルの平均は73%)を持っています。刑事訴訟にあたるエチオピア系ユダヤ人は、7.2%です。エチオピアはイスラエルから空路で約2,500km離れていますが、彼らが出国しイスラエルへ帰還できるまでには15年~25年の年月を要しました。現在も約6千人のエチオピア系ユダヤ人がイスラエルへの帰還を希望しています。その帰還運動の背後には、西側のユダヤ人支援宣教団体ICEJはじめ、幾つもの宣教団体の協力が存在することを忘れてはいけません。

イスラエルに移住したエチオピア系ユダヤ人が、新生活に順応することは容易ではありません。なぜなら1980年代~1990年代に入植した大多数は、読み書きができないため、教育から始めなければなりません。しかしICEJ等の支援団体は、イスラエルへの愛と忍耐を持って彼らを支援してきました。かつてエゼキエルは、「わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れていく。」(エゼキエル36:24)と預言しました。みことばは真実であり、聖書預言が成就しつつあります。神の民の愛の歴史ほど素晴らしいものではありません。イスラエルは神の国として、モザイク状に多様な民族が共住する地です。世界各地からのユダヤ人の帰還運動は、さらに進むことでしょう。どうぞ、お祈りください。



ICEJによってイスラエル帰還が実現したエチオピア系ユダヤ人たち

ミッション・宣教の声 *The Voice of Mission*

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 V1P関西センター5F
TEL:06-6226-1334 FAX:06-6226-1336
E-mail: senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」

The Voice of Mission
MUFJ Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041



編集後記



- 皆様のお祈りとご支援にお礼を申し上げます。激動する時代に、世界各地からのニュースをお届けします。どうぞ祈り覚えてください。
- プーチン・ロシア軍によるウクライナ攻撃は長期化し、出口が見えない中、双方に多くの犠牲者が出ています。皆様からの「ウクライナ支援献金」にお礼申し上げます。戦争が速やかに終息しますようお祈りください。
- コロナ禍での海外邦人宣教も進んでいますが、円安が続く中での日本人宣教師の働きを祈り覚えてください。今号も主の恵みにより、お届けできる幸いに感謝します。